



## 福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)

### (3) 図書館における読書活動の推進

図書館は、読書活動の拠点であり、あらゆる年齢層の子ども達が、いつでも読書の楽しさに触れることができるように支援していきます。そのために、下記の3つの目標に取り組んでまいります。

- 1 自分から読書に親しめる環境づくり
  - ・図書館の環境整備の充実
  - ・市の施設等における図書に関する事業等の周知
  - ・読書に関する情報の発信【重点】
  - ・障がい等のある子どものニーズにあった読書環境の充実
- 2 自分から読書に親しめる機会づくり
  - ・子どもも大人も楽しめる読書に親しむ機会づくり【重点】
  - ・子どもの発達段階に応じた読書に親しむ機会づくり
  - ・障がいのある子どもが読書に親しむ機会づくり
- 3 子どもの読書環境を支える人材づくり
  - ・講座の充実【重点】
  - ・読書活動にかかわる人材への活動の支援
  - ・小学生子ども読書リーダーの育成

また、総合図書館内に設けられた「学校図書館支援センター」では、子どもが本に触れ、親しむことができるように、学校における読書活動や学習活動への支援や学校司書への支援を行っています。

各学校において、学校図書館を効果的に運営できるように、学校の要望に応じて、学校訪問や運営相談を行い、図書の選定やレイアウト等の環境整備、学校図書館の活用や利用促進に関する助言を行い、継続的な支援を行っています。

## <令和5年度 小学生子ども読書リーダー養成講座>

福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）『2 学校における読書活動の推進 <目標3>』もにおいて、学校での「子ども読書リーダーの育成」が重点として挙げられ、各学校と総合図書館（学校図書館支援センター）が連携し、子ども読書リーダーを養成するとともに、子ども読書リーダーの活躍の場を広げていくようになっています。

そのような中、学校図書館支援センターでは、本年度も各小学校において、児童の1人1台端末を活用し、小学生子ども読書リーダーの育成ができるように、令和5年度版の動画資料「小学校読書リーダー養成講座」を実施いたします。（7月11日付 教小育46号）2学期の委員会活動等、今後の教育計画に位置付けていただければ幸いです。

### <小学生子ども読書リーダー養成講座>

- 受講対象者： 5・6年児童  
実施期間： 令和5年 9月～12月  
実施方法： 福岡 TSUNAGARU Cloud」の動画視聴と実習  
実施内容： 【講座1】 読書リーダーとは  
【講座2】 図書館の使い方を友達に教えてあげよう  
【講座3】 学校の下級生に絵本の読み聞かせをしてあげよう  
【講座4】 POP 作成講座  
※ 1講座の所要時間は、約30分  
その他： ・4講座の動画視聴と実習を行った児童へ認定書の発行をお願いします。  
・講座には必ずしも学校司書の参加は必要ありませんが、専門的な内容を含んでいますので、指導する先生と学校司書との事前確認をしっかりとお願いします。

昨年度は、市内の1192人の児童が、小学生子ども読書リーダーとして認定されています。今年度も、各学校において、図書委員会や学年・学級で取り組んでいただき、多くの小学生子ども読書リーダーを養成していただきたいものです。

市内の小・中・特別支援学校は、21日に終業式を迎え、8月27日までの夏休みとなっています。今年の夏は猛暑が予想され、熱中症も心配されています。しかし、子ども達にとっては、待ちに待った夏休み。夏休み期間中、子ども達には楽しく元気に過ごして欲しいものです。また長い休みを利用して、少し長い読みごたえのある本に挑戦したり、図鑑を使って身の回りの自然を調べたりして、読書活動の幅を広げ、大きく成長して欲しいものです。

【須藤】



## 8月のことと人

### 8.12 国際青少年デー

2000年から、若者が社会のあらゆる分野に参加し、意見を反映できる未来を目指して制定されました。2015年のSDGsでは、若者が目標達成のために、自身を変革の担い手として、目標達成に向けて積極的に関わることが重要であるとしています。

### 8.23 処暑(しよしよ)

立秋と白露の間で、太陽の黄経が150度となる日です。

夏の暑さがおさまる頃を表わします。処暑の「処」には止まるという意味があります。この時期、残暑はまだ厳しいものの、夏の太陽の勢いが徐々に鎮まり、朝晩は過ごしやすくなります。

#### 宮沢 賢治 (1896.8.27~1933.9.21)

岩手県生まれ。詩人・童話作家。信仰と農民生活に根ざした創作活動をおこなった。生前は、ほぼ無名であったが、没後、草野心平らの尽力にて知られる。「注文の多い料理店」「やまなし」や「銀河鉄道の夜」などの作品を残している。

#### あまん きみこ (1931.8.13~ )

旧満州にて生まれる。幼いころ病弱で、病床にて家族から聞いた民話や寓話、読んだ本がきっかけで創作の世界へと入る。「ちいちゃんのかげおくり」「白いぼうし」など、多くの作品が教科書に掲載されている。

#### ディック・ブルーナ (1927.8.23~2017.2.16)

オランダ生まれ。グラフィックデザイナーや絵本作家として活躍する。日本ではミッフィー(ナインチェ)やブラックベアの生みの親として有名である。ブルーナカラーや顔を読者に常に向けている絵が特徴的である。

#### ハーマン・メルヴィル

(1819.8.1~1891.9.28)

アメリカ合衆国生まれ。自らが捕鯨船の船員として働いた体験が作品に影響をおよぼした「白鯨」が代表作である。作品は生前の評価は低かったが、死後30年を経て「白鯨」の映画化等で著名となる。

図書館員のひみつの本棚 第 207回

今月は、お料理の絵本をご紹介します。

『みそしるをつくる』

高山 なおみ／文 長野 陽一／写真 ブロンズ新社 2020年 ¥1200(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★★☆ 小低学年★★★★ 小中学年★★★★ 小高学年★★★★ 中学生★☆☆

高校★☆☆ 一般★☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

料理家で文筆家の作者による写真絵本です。リズムカルな文章と動きのある写真で、味噌汁の作り方を楽しく伝えています。作業や分量の表現が新鮮で、子どもたちにも視覚的感覚的にわかりやすくなっています。例えば、お出汁は「にぼしをひとつかみ」ではなく「にぼしを5ひきおよがせる」。具のあぶらあげの切り方は「すとん とん とん すとん とん」。お料理の絵本という枠を超えて、何度も読みたくなってしまふ、「すとん とん とん」って、何度も口に出したくなる、そんなゆかいな絵本です。

<子どもに手渡す時のポイント>

声に出して読むのが楽しく、読み聞かせにも向いており、お話し会でも人気の絵本です。同じ作者のシリーズに「おにぎりをつくる」(ブロンズ新社 2020年)もあります。こちらも子どもにもわかりやすく楽しい写真絵本です。子どもが料理に興味を持った時に、みそしるとおにぎり、まずはこの一番身近な食べものを自分で作るという喜びを楽しみながら伝えられる1冊です。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

